

いろいろな関係者が参加しているんだね。会議ではどんなことを話し合っているの？

農業の課題解決に向けて何ができるかを5者が得意とする部分を役割分担しながら、知恵を出し合っているよ。農業課題と言うと多くの地域で共通するものもあれば、その地域独特の課題もあって、それぞれの地域での重要度や優先度によって話し合う内容が変わることもあるよ。

話し合うことで解決に向かっているものはあるの？

令和2年度以降は多くの地域で「人・農地プラン」の作成を進めることがみんな話し合われたんだ。

人・農地プランって何？

人・農地プランは、言い換えると「地域農業の将来像」のことだよ。今、農業集落では個人農家がどんどん減っていて、耕作されない農地が増えているんだ。一般的に自分で耕作できない人は、大きな農家に農地を預けて耕作を継続してもらうことが多いんだよ。でも、大きな農家が近くにない場合や、貸し借りがうまくいかない場合は、耕作放棄地となってしまうことがあるんだ。そのままでは、地域の農地は荒れてしまって、農業環境や生活環境にも良くない影響を及ぼしてしまう。そうならないよう令和版営農会議で、地域の農地を将来にわたって維持管理するためにどうすればいいの話を話し合っていて、その結果をまとめたものが人・農地プランなんだ。市内では66地区で人・農地プランが作成済みで、このうち46地区は令和版営農会議での話し合いを踏まえて地域で作成されたものだよ。



プラン検討の様子

地域	人・農地プラン作成地区数	備考
津	14	
久居	3	
河芸	2	全域で作成済み
芸濃	1	
美里	1	
安濃	31	全域で作成済み
香良洲	1	全域で作成済み
一志	2	全域で作成済み
白山	7	
美杉	4	

令和版営農会議で人・農地プランの話し合いをすることは地域農業に必要なことなんだね。

そうだね。まずは、令和版営農会議で人・農地プランの重要性を共有して、農業委員、農地利用最適化推進委員をはじめ、地域で人・農地プランの作成を進めていくことになるんだ。令和版営農会議で意見を交換したり、他の地域の状況を聞いたりすることで、令和版営農会議の参加者が同じ方向を向いて地域の支援を行うことができるんだ。

地域で人・農地プランを作るメリットはどんなことがあるの？

人・農地プランは地域農業の将来像だから、地域の人々が現状や将来像を共有できることが最も大きなメリットの1つだよ。ほかにも最近では国の補助事業などを受ける時に、人・農地プランを作成した地域が有利になるようなものが増えてきているんだ。その地域で農地を預かる大規模農家にとっても耕作を続けるためには、人・農地プランは重要になってくるよ。

ほかにも令和版営農会議で解決につながっているものはあるの？

例えば、津南部地域、久居地域、一志地域、香良洲地域では、水田で多くの被害が見られるジャンボタニシの対策について話し合ったんだ。そこでジャンボタニシ捕獲ワナの試作や農家向けに駆除方法の説明会を行ったり、捕獲ワナを配付して実際に使ってもらったりしているよ。ほかにも、香良洲地域や美杉地域を中心に、農作物に対する獣害対策について話し合われて、結果として3つの獣害対策協議会が発足したんだ。



これからの令和版営農会議はどうなっていくの？

令和版営農会議の参加者からは、継続すべきだという意見が多く出ていて、有意義な場として今後も活用していくつもりだよ。耕作放棄地の解消や発生防止、地域農業のリーダーやコーディネーターの育成などの地域農業の課題はすぐに解決できるものばかりじゃないから、定期的に話し合っていて、いろんな知恵を出し合うことが重要だと思うんだ。令和版営農会議をそんな場として継続することが、地域農業の課題解決の近道になるんじゃないかな。

令和版営農会議は、農業に関わる人がみんな力を合わせて問題を解決していく仕組みなんだね。これからも令和版営農会議の取り組みを通じて、津市の地域農業が発展していくといいね。